２０２３年8月２７日　Ｎｏ.３６８２

先週の講壇から　　〝真のシャローム（平和）を求めて〟

イザヤ書 11 章 1 節～10 節

聖句「エッサイの株からひとつの芽が萌えいで／その根からひとつの若枝が育ち／その上に主の霊がとどまる。」（11:1,2）

１．《平和の課題》　韓国では 8 月 15 日を「光復節」と呼んでいます。日本の敗戦で、韓国は植民地支配から解放されて光明が戻った、これが韓国の一般的な歴史認識です。北朝鮮でも「祖国解放の日」と呼ばれています。そもそも韓半島が今のように分断された原因の一つとして、日本の支配があり、日本、韓国、北朝鮮は平和の課題を共有しています。日本基督教団は、戦後、平和に関して歴史的な責任感をもって具体的に行動して来ました。1967 年に発表された「戦争責任告白」、沖縄基督教団との合同運動、関東教区が作成した「罪責告白」がその例です。

２．《主を知る事》　そもそも「平和」とは何でしょうか。果たして日本は平和でしょうか。平和学によると、平和には「争いのない状態」としての消極的な定義もあれば、「暴力の不在」という積極的な定義もあります。日本は、消極的な意味では平和のようですが、積極的な意味でも平和でしょうか。旧約聖書の「シャローム」の意味は「暴力の不在」という積極的な理解としての平和に近いのです。そして、そのシャロームが最も美しく描かれているのが「イザヤ書」11 章６～９節です。そこに弱肉強食による暴力関係が存在しない理由は、９節「水が海を覆うように／主を知ることが地を満たすから」（聖書協会共同訳）です。真の平和を求めている私たちにとって、その鍵は主イエス･キリストを知ることにあります。私たちが平和のために働く理由、目的、方法はイエスの中にあります。主を知っているので、私たちは平和のために働き、その中で更に深く主を知ることができるのです。

３．《十字架の主》　主イエスを知ることは、実は、絶望の淵から始まるのです。「イザヤ書」11 章１～５節に対して、教会は伝統的に「メシア預言」として理解してきました。1 節の「エッサイの株」「その根」とは、当時の絶望的な状況を意味します。人間が希望を持つことができない時に、ほんの少しの命が生じており、その上に主の霊のお働きがあります。それ故にこそ、私たちには、イエス･キリストを正しく知ることが重要です。間違ったキリスト教理解は、かつての植民地支配や戦争を支持したような偽りの平和に導いてしまいます。キリスト教の核心は、イエスの十字架の死と復活です。従って私たちが求める平和も、十字架に倣ったものでなければなりません。人のために自分（我）が犠牲になることです。命を捧げるまでしなくても、生活の現場で「平和の日常」を培うことが大切です。

李　元重牧師